

5文型：OとCを関係で判定する

イコール関係を軸にした、根拠ある文型判定メソッド

S

V

O

C

S

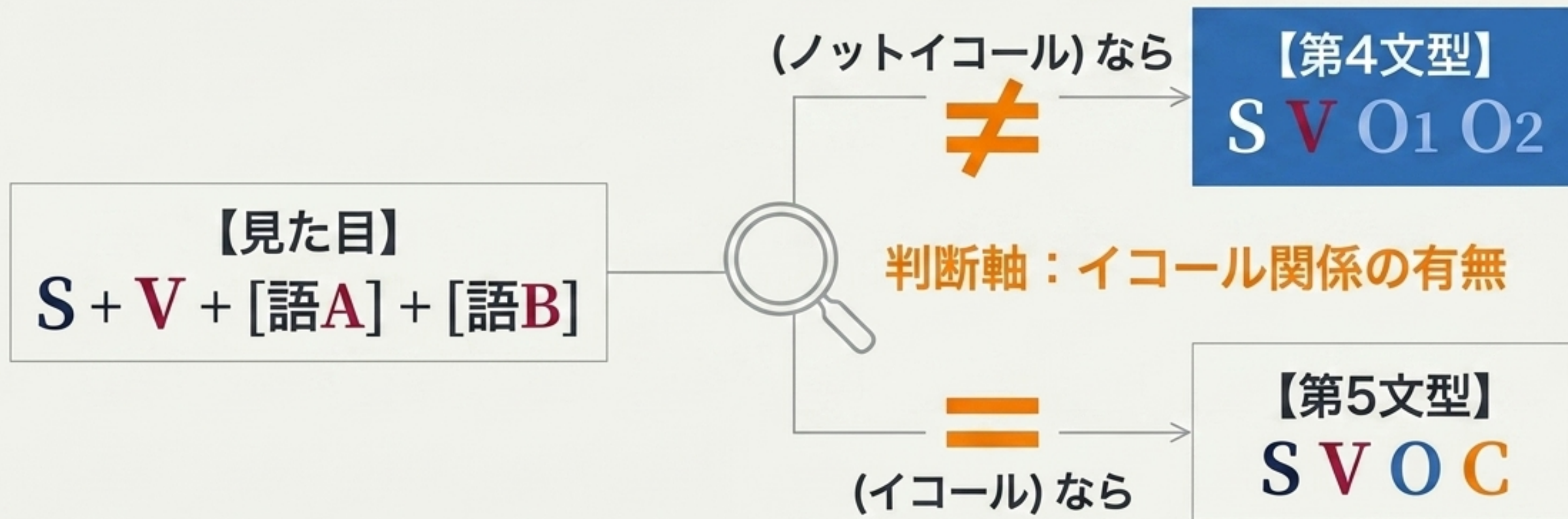
V

O

C

動詞の後ろの語を、主語または
目的語との「イコール関係」で調べ、
第1～第5文型を根拠つきで判定できる。

ゴールの具体化：見た目に騙されない



受験での位置づけ

和訳の骨格を崩さないための基礎技能

× NGなアプローチ

【方法】

動詞ごとの文型パターンを丸暗記する。



【結果】

初見の動詞や、
複数の用法を持つ動詞
が出現した瞬間に
対応できなくなる。



○ 正しいアプローチ

【方法】

語と語の関係性を検査する。



【結果】

長文中の名詞が
「目的語」なのか
「補語」なのか、
論理的に確定できる。



この回のポイント



イコール関係の成立

第2文型では $S=C$ 、
第5文型では $O=C$



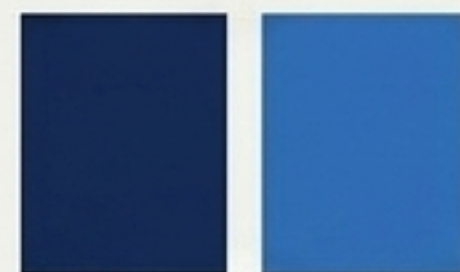
イコール関係の不成立

第3文型では $S \neq O$ 、
第4文型では $O1 \neq O2$



文型要素外

前置詞句と副詞は修飾語
 M (文型要素に数えない)



2つの名詞の連続

授与関係なら第4文型、
説明関係なら第5文型

定義・用語：補語(C)と目的語(O)の違い

	定義	関係	例
補語 C	主語または目的語の性質・状態・同一物を説明する語 (名詞・形容詞)	イコール関係が成立 (S=C または O=C)	$\frac{\text{She}}{\text{S}} \frac{\text{became}}{\text{V}} \frac{\text{a doctor}}{\text{C}}$ → S=C (同一人物) $\frac{\text{They}}{\text{S}} \frac{\text{painted}}{\text{V}} \frac{\text{the wall}}{\text{O}} \frac{\text{white}}{\text{C}}$ → O=C (結果状態)
目的語 O	動作の対象となる語	イコール関係は不成立 (S≠O)	$\frac{\text{She}}{\text{S}} \frac{\text{bought}}{\text{V}} \frac{\text{a book}}{\text{O}}$ → S≠O (同一ではない)

核となる手順：文型判定アルゴリズム

除外: 前置詞句と副詞を < > で括り、骨格から外す(<M>)

確定: 主語 **S** と述語動詞 **V** を確定する

0個

V の後ろに名詞・形容詞はいくつあるか？

1個

「**S** = 後ろの語」を検査

成立

不成立

2個

「1つ目 = 2つ目」を検査

成立

不成立

第1文型
(SV) を疑う

第2文型
(**S****V****C**)

第3文型
(**S****V****O**)

第5文型
(**S****V****O****C**)

第4文型
(**S****V****O****O**)

最終確認: 日本語の意味を当て、関係が自然か確認する

例題A：同じ語順を関係で切り分ける

例題1

The committee / elected / Ken = captain.
(S) (V) (O) (C)

[根拠] 修飾語なし。Ken = captain (ケンが主将になった) という同一関係 → O=C

[結論] 第5文型 (S V O C)

例題2

My aunt / gave / Ken ≠ a camera.
(S) (V) (O1) (O2)

[根拠] 修飾語なし。Ken ≠ a camera (ケンにカメラを与えた) という授与関係 → O1≠O2

[結論] 第4文型 (S V O1 O2)

誤答比較：形容詞の扱い

対象文: They found the room empty.

× 誤った判定 (第4文型)

They / found / the room / ~~empty~~
(S) (V) (O1) (O2 ×)

エラー原因: emptyを目的語にしている。
矛盾: emptyは「物」ではなく形容詞であり、目的語にはなれない。

○ 正しい判定 (第5文型)

They / found / the room / empty
(S) (V) (O) (C○)

判定根拠: the room  empty (その部屋は空である) という説明関係が成立。形容詞emptyは目的語the roomの状態を説明する補語(C)。

演習：自力確認（判定と根拠）



5秒考える

- (1) She looks happy today. (todayの役割も含めて)
- (2) He showed me the answer after class. (meとthe answerの関係から)
- (3) We call the dog Pochi.

【解説】

- (1) She(S) / looks(V) / happy(C) / <today(M)>.
→ todayは副詞(M)。She = happy なので 第2文型(SVC)
- (2) He(S) / showed(V) / me(O1) / the answer(O2) / <after class(M)>.
→ after classは前置詞句(M)。me ≠ the answer (授与) なので 第4文型(SV00)
- (3) We(S) / call(V) / the dog(O) / Pochi(C).
→ the dog = Pochi(同一) なので 第5文型(SVOC)

落とし穴：よくある勘違い



- × 動詞の後ろに名詞があるだけで、すべて目的語(O)と決める
→ 必ず $S=C$ の確認を怠らないこと。
- × 名詞が2つ並んだだけで、すべて第4文型(SV O O)と決める
→ 授与関係か、説明関係($O=C$)かを毎回検査すること。
- × 形容詞は補語(C)にならないと思い込み、修飾語(M)にしてしまう
→ 例：look **happy** の **happy** は M ではなく C。
- × 前置詞の後ろの名詞を、目的語(O)として文型に数えてしまう
→ 前置詞＋名詞は必ず $<>$ でくくり、骨格から外すこと。

到達チェック：関係性の統合マトリクス

	イコール (=)	ノットイコール (≠)
Sとの関係	第2文型 (SVC) : $S = C$ 主語と補語がイコール	第3文型 (SVO) : $S \neq O$ 主語と目的語は別物
Oとの関係	第5文型 (SVOC) : $O = C$ 目的語と補語がイコール／説明関係	第4文型 (SVOO) : $O1 \neq O2$ 目的語同士は別物／授与関係

目標クリアの確認

- ☐ $S = C$ と $O = C$ の違いを例文で説明できる
- ☐ 第4文型と第5文型をイコール関係だけで切り分けられる
- ☐ 前置詞句・副詞を外してから文型判定できる
- ☐ 初見文でも判定根拠を一文で説明できる

次Partへの接続



完了：ME-EN-01-P02：5文型：OとCを関係で判定する
骨格(S,V,O,C)を特定する技術を習得した。



次Part：ME-EN-02-P01：品詞と修飾範囲

文型判定の精度をさらに上げるため、「品詞」を手がかりにして修飾語(M)がどこからどこまでかを確定する技術へ進む。